

# 令和5年度 学校評価自己評価表（最終）

学校教育目標 夢や目標に向かい、自らを高める

廿日市市立津田小学校

ミッション 子供たちが夢に向かって自己実現できるように、その基盤となる力を育成する。保護者の願いに応え、子供のよりよい成長を図る。地域の人々とつながり、地域の活性化に貢献する。

ビジョン 学ぶことが楽しくなる学校 心が温かく優しくなる学校 心も体もたくましくなる学校

中期経営目標		短期経営目標	目標達成のための方策	担当	評価項目・指標・目標値		評価	結果（●）と考察（☆）	今後に向けて（○）	コメント
確かな学力（知）	・基礎、基本の力を身に付け、自ら学び、考え、表現する「確かな学力」を育む	◎基礎的・基本的な知識・技能の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びのある授業にするために7つの授業改善に取り組む。（重点）</li> <li>①算数科の本質にせまる単元構成</li> <li>②課題設定の工夫</li> <li>③自分の考えをもつ場面の工夫</li> <li>④学び合いの授業展開の工夫</li> <li>⑤振り返りの充実</li> <li>⑥ICT機器の積極的な活用</li> <li>⑦主体的に学ぶ態度の育成</li> <li>・家庭学習ステップアップ週間を学期に1回実施し、家庭学習の定着や生活リズムの見直しを図る。</li> </ul>	教務部	80%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●廿日市市学力定着状況調査・標準学力調査 国1年63 2年100 3年62 4年55 5年82 6年77 算1年100 2年89 3年46 4年55 5年73 6年92（平均75%）</li> <li>●算数学期末テスト（12月）1年91% 2年100% 3年91% 4年80% 5年80% 6年62%（平均84%）</li> <li>●自ら進んで学習に取り組んでいる児童の肯定的評価94.1%</li> <li>☆ユニバーサルデザインの視点を意識した授業改善やチャレンジタイムの取組を継続したこと、算数の研究による授業改善が効果的であったと考えられる。</li> <li>☆お手本になる児童のノートを校内掲示したこと、家庭学習ステップアップ週間を使って児童に計画的に学習に取り組む機会を設けたことが効果的だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学力調査の結果を分析して、理解の定着を図る指導に取り組み、保護者にも結果と指導内容を発信する。</li> <li>○ユニバーサルデザインの視点の授業改善やチャレンジタイムの取組を継続し、基本的な学力の定着・向上を図る取組を行う。</li> <li>○国語の課題を分析し改善する取組を行うとともに、ICTを効果的に活用することで、主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の向上を図る。</li> <li>○家庭学習ステップアップ週間の取組が児童の毎日の学習の充実結び付くように、さらに取組内容を工夫改善する。</li> </ul>	○算数では、児童に自分の考えをもたせることができるような手立てを工夫したり、ユニバーサルデザインに取り組んだりして授業改善を行ってきたことだが、いずれも一人一人の児童に力を付けていくために大切なことなので、引き続き取り組んでもらいたい。
					70～79%	B				
					60～69%	C				
					60%未満	D				
豊かな心（徳）	・基本的生活習慣を身に付け、思いやりをもって行動できる「豊かな心」を育む	★自他の良さを認め合う、自己肯定感・自己有用感の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「つながりタイム」・ソーシャルスキルトレーニング・エンカウンター、話し合い活動など特別活動を充実させる。</li> <li>・帰りの会で週に3回は「いいことみつけ」を行い「学年の1枚」を毎月放送・掲示する。</li> <li>・教職員による児童への肯定的評価である「津田コーナー」に取り組む。</li> <li>・アセスによる学級全体と個人の傾向を把握し、取組に役立てる。</li> <li>・縦割り班やペア学年など異学年交流を充実させる。</li> </ul>	生徒指導部	90%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケート結果 児童「自分にはよいところがある」92%「学校・クラスのみならず認められている」90%</li> <li>☆アンケート結果から、児童の級友関係が良い状態であると見ることができる。</li> <li>☆9割以上の子どもが自分の良さに気づいてきた。</li> <li>☆「いいことみつけ」の活動を続けていくことで、周りの友だちから認められていると感じる子どもが増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級、学校の取組として、「いいことみつけ」の活動を充実させる。そのためにも、教職員による肯定的評価の場を設ける。（たてわり掃除の時間等）</li> <li>○つながりタイムや学級活動において、エンカウンター活動を継続していく。</li> </ul>	○自分を肯定的に捉える児童が今後も増えていってほしい。地域で見る保護者の様子も挨拶が増えてきている。児童・保護者がともに伸びる地域でありたい。
					80～89%	B				
					70～79%	C				
					70%未満	D				
健やかな体（体）	・健康への意識や体力を高め「健やかな体」を育む	◎活力ある生活の基盤となる体力や運動能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>持久力を高めるために、体育の学習では、毎時間、サーキットトレーニングを行う。また、毎週金曜日の朝トレでは、全校児童を対象にしたトレーニングを行う。</li> <li>・児童の体力向上のために、体育委員会が、いろいろな遊びやラジオ体操、朝トレの仕方を紹介して、運動に親しめるようにする。</li> </ul>	健康安全部	80%以上	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目標タイムを達成した児童…全校児童では、48→72%であった。（1年82%2年100%3年46%4年91%5年70%6年54%）</li> <li>☆学年により達成率に差があり、達成率60%以上が4つの学年、他の2つの学年が60%未満であった。</li> <li>3つの学年で、目標タイム達成率が10～40%程飛躍的に伸びた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育科の授業での取組に加え、体育委員会を中心に、運動の楽しさを味わえるような活動を設定する。</li> <li>○朝トレや休憩時間を活用して持久力を向上するための活動を設定し、児童の自発的な取組を啓発する。</li> <li>○持久走の計測など、児童の持久力を定期的に測り、指導改善に継続的に取り組む。</li> </ul>	○児童の体力低下が気になっていたが、結果がよくて安心した。放課後児童教室でも楽しみながら体力づくりをする機会をもち、気が付いたら体力が付いていた、というようにしたい。
					70～79%	B				
					60～69%	C				
					60%未満	D				
協働する教職員	・働き方改革に取り組むとともに、協働する職場作り	◎健康で生き生きとやりがいのある職場の創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員で熟議し、業務改善の推進を図る。</li> <li>・定時退校日を週1日（水曜日）設定する。</li> <li>・学校教育目標の具現化に向かって「チーム津田」として一丸となって取り組む。</li> </ul>	校内衛生委員会	85%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●時間外勤務時間が月平均4.5時間を超えない教職員の割合が91.7%だった。前期の71.5%と比べると、大幅に伸びている。</li> <li>●教職員アンケート「生き生きとやりがいをもって勤務している」94%</li> <li>「『チーム津田小』として一丸となって教育活動に取り組んでいる。94%</li> <li>☆会議や研修のもち方を工夫したり、成績処理週間を設けたりすることが業務削減につながった。</li> <li>☆大きな行事があったが、低・中・高学年で連携し合ったり、主任を中心に計画的に仕事を進めたりしたことが教職員の高い数値につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員一人一人が充実した働きができるように気配りや声掛けを行う。</li> <li>○繁忙期に成績処理週間を設けることで、事務処理が勤務時間内にできるようにする。</li> <li>○定期的に業務分担に偏りがなく、内容が適切か、見直しと精選をしていく。</li> <li>○毎月の平均時間と超過人数を共通認識したり、個人票を配ったりするなど職員の自覚を促していく。</li> </ul>	○日頃から先生方には一生懸命取り組んでもらっている。業務も削れるところは削って、力を入れるべきところには力を入れて、その見極めには気を付けながら取り組んでもらいたい。
					75～84%	B				
					65～74%	C				
					65%未満	D				
地域と歩む学校	・地域の教育力を活用し、地域から信頼され、地域と主に歩む学校	◎地域の教育力を活用しともに育てる教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の協力を得る教育活動から、地域への貢献を意識した教育活動への向上する。</li> <li>・児童、保護者、地域、教職員にとっても魅力的なコミュニティスクールの積極的推進を行う。</li> </ul>	総務部	85%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域アンケート「津田小学校の子は元気なあいさつをしている。」100%</li> <li>「津田小学校の教育活動の様子はよく伝わっている。」100%</li> <li>「津田小学校の教育活動に満足している。」100%</li> <li>☆挨拶は教職員の継続的な指導とともに地域の方による登下校の見守り、学習支援ボランティアさんとの関わりなど、地域の方と接する機会が多いことが児童の自然な挨拶につながっている。</li> <li>☆学校便りやHPの更新など児童の様子を日常的に伝えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶については、委員会活動などを通して、意識が高まる取組を児童とともにいたり、児童に挨拶の意義を理解させたりするような指導を継続する。</li> <li>○学校便りやHPでは、児童の頑張りや地域とのつながりを中心に配信する。そのことで日々の教育活動が地域や家庭によく伝わるようにする。</li> <li>○学校が日常的に地域・家庭と対話をしていくことで、よりよい教育活動につなげる。</li> </ul>	○浅原地域とのつながりを大切にしている。今後も引き続きお願いしたい。
					75～84%	B				
					65～74%	C				
					65%未満	D				